

<b>苦しい時ほど神頼み 1ペテロ 2:1-10</b>	2021. 7. 11(文月)庄和 NO. 660 春日部福音自由教会 山田豊
------------------------------	--

「苦しい時の神頼み」とは、日ごろは神も仏も拝んだことがない信心の無い者が、苦難や災害など困ったことにあった時だけ、神仏に助けをを求めることを言うことわざです。どちらかという、ネガティブな意味合いで使われます。しかしこれは必ずしも否定的なことではないと思います。キリスト者にとっては、苦難の時にこそ神様に心から信頼する、己の力よりも神さまに依り頼むことを学ぶ良いチャンスであると思うのです。

本日のテキストであるペテロの手紙は、国外に散らされて苦難の中にある兄弟姉妹を励まし、そのような中でも成長することを願い、祈りの中で書かれた手紙です。最近の長雨で、庭の草木もずいぶん伸びてきました。そのように、キリスト者も苦しみが降り注ぐような中でこそ成熟した人間になれることを、この手紙は私たちに教えていると思うのです。

そのためには、捨てなければならぬものがあります(1)。神の言葉出る聖書によって成長することは既に学んできたと思いますが、その前に成長を妨げている物を捨てなければならぬのです。あるいは、剪定をして立派な実を实らせるように、取り除かなければならぬものがあります。ここに書かれている「悪意、偽り、偽善、妬み、悪口」のうち、あなたにとって捨てるのが難しいものがありますか？意外と「妬み」はなかなか捨てるのが難しいのではないのでしょうか？しかしこのような物を捨ててこそ、神の家族に一員として成長することができます(5)。

この一方で、イエスキリストに信頼を置くことが勧められています。イエスは、彼を信頼できなかつた人たちによって捨てられたのです。十字架に張り付けられ、死に、葬られ、封印までされて人々から捨てられたのでした。しかし、そのイエスはよみがえり、信じる者に命を与えたのでした。そしてこのイエスを神の御子と信じる信仰の土台の上に、教会を造られたのでした。イエスはその礎石であり、信者は組み立てられた一つ一つの石であるようなものです。立派な建物を作るときには、その建築材料を吟味して、よいものを使います。すなわち、選ばれるわけです。イエスを信じた者も、神の教会の一員として神様に選ばれ、尊いものとされているのです。

苦難に会うと、しばしば慌てて祈ることもせず、神を信頼することも忘れて自分の力で何とかしようと思うことはありませんか。呼吸が乱れて、我を失うような感覚です。これでは、何のために信仰をいただいたのかわかりません。苦しい時にこそ神様に信頼して、祈りの心を取り戻しましょう。

2コリント 1:4a

神は、どのような苦しみの時にも、私たちに慰めてくださいます。

## 引用聖句

ピリピ 2:9-11 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。

ヨハネ 1:12-13 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

ヨハネ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

コロサイ 1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

エペソ 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

2 コリント 8:1-5 さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。私は証します。彼らは自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ、聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもって私たちに懇願しました。そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがって、まず自分自身を主に献げ、私たちにも委ねてくれました。

## アンブロワーズ・パレ

Ambroise Paré,(1510年 - 1590年12月20日)は、フランスの王室公式外科医。近代外科の発展において重要な功績を残した。また、整骨術に関する著書はオランダ語訳を経て華岡青洲の手に渡り日本の外科医療に多大な影響を与えた。医学史家から「優しい外科医」と評され、自身も「我包帯す、神、癒し賜う」という言葉を残している。